愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	演劇論		
担当者(Instructors)	小原 ひろみ	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「多様な他者とイメージを共有し、価値観の差異を認め共同体を維持するために生まれた歴史ある芸術」（引用「ともに生きるための演劇」平田オリザ著）である「演劇」の創作や上演に至る過程を学び・体験する。①コミュニケーションワークショップ　②多様な価値観を活用しあいながら協働するグループワーク　③他者と信頼しあい自己実現するための表現力を育成する体験型学習　④演劇創作のグループワーク　⑤創作劇の発表　⑥感想や意見の交流を行う体験学習と講義で構成する。演劇に関する知識を学び、演劇体験することを通して、「演劇」を知ることと社会的情緒スキル（「長期的目標の達成」「他者との協働」「感情を管理する能力」）を高めることを目的とする

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式と、アクティビティの体験やグループワークなどの体験型学習を組み合わせて行います。特にグループや個人でのふり返りを重視し、対話による体験の言語化と深化を丁寧に行います。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の概要や目的や進め方を説明する。自己紹介と他己紹介を行う。	□
第2回	演劇から学ぶコミュニケーション１	演劇的手法を用いた「非言語コミュニケーション」ゲームを体験する。非言語による表現とその読み解きを学ぶ。	□
第3回	演劇から学ぶコミュニケーション２	言語コミュニケーションのアクティビティを通して、よりよい発信と受信のための自己の在り方を学ぶ。	□
第4回	演劇から学ぶコミュニケーション３	グループで協働し課題解決するアクティビティを通して、目標設定の共有、多様な価値観の活かしあい方について学ぶ	□
第5回	演劇から学ぶコミュニケーション４	グループワークで簡単な創作活動を行う。グループで創作した作品を鑑賞しあう。他グループの作品について感想を交流する。	□
第6回	演劇から学ぶ発想力	物を見立てる（抽象化する）活動や、多角的視点で柔軟に発想する活動を行う。	□
第7回	演劇から学ぶ想像力、表現力	さまざまなテーマでの創作活動を行う。音声表現や身体表現、言語表現などを活用して短い演劇を創作する。	□
第8回	演劇公演の紹介	グループワークで演劇公演情報を調べる。作者や演出家、俳優やスタッフ、公演内容などについてプレゼンテーションを作成し発表する。	□
第9回	戯曲を読む１	「わが町」（ソーントン・ワイルダー作）の抜粋を読む。	□
第10回	戯曲を読む２	グループワークで「わが町」の人物背景や行動と心情について読解する。読解する際に必要な作品の背景を調べる。グループで場面を選択し配役を決める。	□
第11回	戯曲を読む３	グループで選択した場面を練習し、発表を行う。他グループの発表を鑑賞しあい、感想を交流する。	□
第12回	演劇を創作する１	自分の体験を基にして演劇台本を創作する。グループで共有し、グループメンバーの台本を構成して構成劇台本を創作する。	□
第13回	演劇を創作する２	グループワークで配役等の役割分担、練習の計画を作成する。上演に向けた取り組みを通して、グループでの課題解決を体験する。	□
第14回	演劇を創作する３	構成劇の練習をする。トライアウト（試演）を行う。相互に鑑賞し、感想や意見を交流する。それを活かし、より効果的な表現を検討する。	□

第15回	発表とまとめ	グループで創作した構成劇の発表と鑑賞。感想や評価の意見交流をする。創作と発表の体験をふり返り言語化し、まとめのレポートを作成する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業で配布した資料や授業で行ったアクティビティの内容を振り返り、その目的・目標を理解し、自身の成果及び今後の課題をまとめる。（２時間程度） 授業時間内でできなかったものをやり遂げる。（２時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、ミニレポートを作成する。レポートは全体で共有する機会をもち、課題に対する意見交流を行いフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	経験や知識を活用して自らの意見をもち、それを表現することができる。 自他の意見を活かしあいながら合意形成を目指すことができる。 感情をコントロールし、粘り強く課題に取り組むことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			80%	20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

各回の終盤にミニレポートを作成してもらいます。また、最終回の授業にてまとめのレポートを作成してもらいます。その他20%は、グループ活動への貢献度、11回目と15回目の授業での発表劇の成果で評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし資料等は適宜プリントし、配布します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		